

19. アンケート集計結果

◎ 経営意識等に関するアンケート

(1) 経済システムについて

a 我が国経済システムにとって、現状並びに今後懸念される項目（複数回答可）

（単位：％）

① 株価下落問題	16.0
② 地価下落問題	7.9
③ 金融システム不安	36.7
④ コーポレートガバナンス（企業統治システム）の問題	4.7
⑤ 雇用問題の顕在化	46.6
⑥ 消費の低迷	59.9
⑦ 為替レートの動向	41.7
⑧ 米国の景気動向	19.6
⑨ アジア不安	4.1
⑩ 高齢化に伴う負担増の影響	25.9
⑪ 産業の空洞化	7.0
⑫ 過剰設備・債務（サプライサイド）	14.4
⑬ その他	0.7

b これまで実施・予定されている景気・金融対策についての評価

（単位：％）

① 十分効果が出ている	0.5
② ある程度効果が出ている	54.2
③ 現在効果は出ていないが、今後効果が見込まれる	28.5
④ 現在効果が出ておらず、今後も効果が見込まれない	15.3
⑤ その他	1.5

(2) 構造改革について

a 我が国の構造改革についての優先課題（複数回答可）

（単位：％）

① 行政改革の推進	49.8
② 財政改革の推進	42.6
③ 規制緩和の推進	50.0
④ 金融システムの改革	30.6
⑤ 企業税制システムの改革	32.8
⑥ 企業負担（社会保険料等）の軽減	19.4
⑦ 新規事業の創出	28.3
⑧ 雇用システムの改革	24.5
⑨ その他	0.4

b 企業税制システムの改革や企業負担の軽減のために必要と考える具体的項目〔aで⑤または⑥と回答した企業〕（複数回答可）

（単位：％）

① 連結納税制度の導入	61.3
② 固定資産税等土地保有税の見直し	31.8
③ 公的年金保険料等の法定福利費の負担軽減	48.1
④ 企業年金等に係る規制・税制の見直しによる負担の軽減	62.3
⑤ 資金調達環境の改善（手数料、手続き等）の見直し	19.7
⑥ その他	2.7

(3) 企業負担（社会保険料等）について

a 企業年金制度について必要と考える項目（複数回答可）

（単位：％）

① 公的年金の見直しに併せた中立的な税制の構築のための年金課税の基本的見直し	42.6
② 公的年金の見直しに併せた企業年金基本法（情報開示、受託者責任、受給権付与基準、最低積立基準等を統一的に規定）の制定	29.1
③ 厚生年金基金の資産運用に係る規制緩和の前倒し	22.4
④ 確定拠出型年金（例：米国の401Kプラン）の導入	43.3
⑤ 給付設計の弾力化（厚生年金基金加算部分における有期年金の導入や、一時金と年金の間の不公平の是正）	21.8
⑥ 給付水準引き下げの一層の弾力化	20.4
⑦ 運用機関の運用能力の向上	28.9
⑧ 運用手数料の見直し	10.0
⑨ 運用機関の受託者責任の明確化	12.5
⑩ 支払保証制度の充実	7.1
⑪ 現状のままでよい	2.2
⑫ その他	1.3

b 企業負担との関係から、雇用計画に関して検討している項目（複数回答可）

（単位：％）

① 新規採用の中止又は手控え	57.9
② 中途採用の中止又は手控え	23.3
③ 従業員の出向（転職出向を含む）	23.1
④ 早期退職勧告	11.6
⑤ 特に検討していない（現状の雇用体制を維持する）	28.7

(6) 情報化関連投資について

a 10年度、11年度、12年度の設備投資額に対する情報化関連投資の割合

（単位：％）

	10-11年度共通回答企業		11-12年度共通回答企業	
	10年度	11年度	11年度	12年度
全産業	9.5	9.9	6.3	7.8
製造業	7.4	7.9	8.6	14.0
非製造業	11.8	11.6	5.2	5.2

b 情報化関連投資の目的

（単位：％）

	第1位	第2位	第3位
① 研究開発基盤の整備	6.6	4.4	4.2
② 新規事業分野への進出	0.6	1.4	0.8
③ 生産効率のアップ	43.4	16.5	8.3
④ 受発注システムの効率化	17.8	25.0	9.7
⑤ 財務、人事管理等の効率化	9.2	19.9	20.8
⑥ 意思決定の迅速化	11.3	12.9	15.5
⑦ サービス向上による他社との差別化	3.4	5.4	7.2
⑧ 自社情報の積極的な発信、提供	1.8	3.9	6.4
⑨ 外部情報収集による企業戦略の構築	0.5	2.5	5.7
⑩ 人員削減	3.3	5.4	11.6
⑪ 組織のフラット化（階層の削減）	0.5	2.1	5.1
⑫ 企業イメージアップ	0.0	0.3	2.0
⑬ その他	1.6	0.3	2.7

c 情報化関連投資の実施状況

(単位：%)

	実施済み	実施中	未実施	予定なし
① ネットワーク環境整備	57.3	33.8	6.8	2.2
② 執務環境のOA化	57.6	37.6	4.0	0.8
③ CAD/CAM (コンピュータ設計・生産支援システム)	48.0	24.7	12.6	14.6
④ クライアント/サーバシステム	53.2	28.9	10.8	7.1
⑤ EC (電子商取引)	4.2	13.0	51.3	31.5
⑥ 物流取引上でのEDI (電子データ交換)	18.7	26.1	33.4	21.9
⑦ POS/EOS (販売時点情報管理システム・オンライン受注システム)	19.2	13.7	33.6	33.5
⑧ CALS (生産・調達・運用支援統合情報システム)	6.1	19.4	48.7	25.8

◎ 研究開発について

(1) 研究開発費について

研究開発の目的 (複数回答可)

(単位：%)

① 事業の多角化	37.4
② 現在生産している製品の高付加価値化	86.2
③ 生産ラインの高度化	25.5
④ その他	11.2

(2) 研究開発促進について

研究開発を行う上で不足しているもの (複数回答可)

(単位：%)

① 研究開発設備・施設	30.6
② 研究員	43.2
③ 専門的な知識・情報	45.9
④ 研究開発費 (設備投資以外のもの)	34.5
⑤ 研究開発時間	14.9

◎ 新規事業投資動向について

(1) 新規事業投資を行う際の問題点 (複数回答可)

(単位：%)

① 公的規制の存在が新規事業の存在を妨げている点	6.4
② 新規事業の販売等のノウハウの獲得が困難な点	42.0
③ 新規事業分野の情報の入手が困難な点	16.7
④ 本業の企業収益の悪化から投資選別を行わざるを得ない点	32.6
⑤ 人材確保が困難である点	22.6
⑥ 資金調達面等での制約が生じている点	11.6
⑦ 技術的ノウハウが不足している点	38.7
⑧ 進出部門の将来性が不確実であり、リスクが大きい点	50.7
⑨ 進出部門への参入企業が多く、競争が激しい点	15.8
⑩ その他	3.4

(2) 社内ベンチャーを行う場合の、制度・政策面での要望事項（複数回答可）

(単位：%)

① 連結納税制度の導入	38.5
② 分社化手続きの簡素化	32.6
③ 税制、財投等の財政支援策	58.2
④ 店頭株式市場の活性化	3.4
⑤ 大学の有効利用（人材交流、技術移転、共同開発等）	14.3
⑥ 転職に際して不利にならないような年金制度への見直し	9.2
⑦ その他	3.3

(3) 新規事業投資を行う際の重視項目

(単位：%)

① 収益の確実性を重視する	36.4
② 投資回収期間が短い事業を中心に、収益の即効性を重視する	8.4
③ 中核となる事業分野を想定しているため、進出先分野の市場の将来性を重視する	13.5
④ 既存事業との関連性のない、進出先分野の新規性を重視する	1.0
⑤ 既存事業分野との関連性を前提として、総合的な効率性の向上を重視する	39.0
⑥ その他	1.7

◎ 資金調達環境について

(1) 間接金融について

a 今後（1年程度内）の借入残高の見通し

(単位：%)

① 設備投資計画等があり新規の借入を行うため借入残高は増加する	11.6
② 増産・増販により運転資金の借入を行うため借入残高は増加する	2.1
③ 生産・売上の低迷が予想され運転資金の導入が必要となるため借入残高は増加する	7.5
④ 約定返済程度の借り入れにとどめるため、借入残高は変化しない	25.5
⑤ 新規に借り入れは行わず約定返済のみとなるため、借入残高は減少する	19.8
⑥ 借入金の積極的な圧縮方針をとっており借入残高は減少する	22.3
⑦ 銀行等からの借入調達から、社債や新株発行による直接金融での調達に移行する計画にあり、借入残高は減少する	2.0
⑧ 間接金融は利用していない	9.2

b 銀行等による資金調達に關しての要望事項（複数回答可）

(単位：%)

① より効率的な条件（金利、期間等）での資金の供給	79.4
② 貸出金利や預金金利、手数料体系等に関する横並び体質の見直し	32.2
③ 過度の物的担保、担保徴求、保証人徴求の見直し	24.4
④ 知的所有権の担保化等新たな金融商品の開発	2.9
⑤ 事業審査能力の向上	5.7
⑥ 融資に関する手続きの簡素化	27.3
⑦ 相互参入の促進、業務範囲規制の緩和による金融機関間の競争促進	15.3
⑧ 不良債権の早期処理	10.8
⑨ 金融機関自身によるリスク管理体制の強化	6.8
⑩ 銀行等によるディスクロージャーの充実等を通じた市場チェックの強化	7.4
⑪ 資本金5億円未満の企業へのコミットメントラインの提供	1.7
⑫ 特になし	7.6
⑬ その他	0.7

c 取引金融機関に対して期待する点（複数回答可）

（単位：％）

① 設備資金・運転資金の安定的・効率的供給	74.5
② 多様な資金調達・運用手段等に関するアレンジメント機能	53.6
③ 財務、税務等のコンサルティング機能	18.5
④ 取引先紹介、企業提携・買収に関する情報提供機能	25.2
⑤ 海外拠点展開の進展に対応できる充実した国際業務の機能	17.3
⑥ 安定株主の機能	14.1
⑦ 役員、従業員の派遣による人材の供給	0.8
⑧ 経営危機時における資金面を中心とするサポート機能	25.9
⑨ その他	1.6

(2) 直接金融について

a 直接金融による調達に関する方針

（単位：％）

① 既に直接金融調達を行っており、今後も積極的に活用する	10.0
② 既に直接金融調達を行っており、今後も現状程度の利用を行う	24.1
③ 現在利用はしていないが、今後利用する	10.7
④ 現在利用しているが、今後は消極化する	3.6
⑤ 利用したいが、割高な手数料や市場の未整備等により、現在は利用していない	4.0
⑥ 利用したいが、会社規模、信用力の点から現在は利用できない	13.1
⑦ 現在も今後も利用する意向はない	34.6

b 直接金融による資金調達に関して、今後整備すべき具体的課題（複数回答可）

（単位：％）

① 金融仲介機関の競争促進（免許制から登録制への移行や業態別子会社の業務分野規制撤廃）	27.9
② SPC法（特定目的会社による特定資産の流動化に関する法律）の使い勝手の改善	13.7
③ 社債、国債等に係る元利手数料、当初登録手数料等の手数料体系の見直し	34.8
④ 5年物利付国債の発行解禁等、国債の償還期間の多様化	2.3
⑤ 適格機関投資家の範囲の拡大	8.7
⑥ 社債に係る発行登録制度を利用できる企業の範囲拡大	11.0
⑦ 企業の経営内容に関するディスクロージャーの充実	13.1
⑧ 減損会計の導入等、会計基準の適正化及び国際的調和の促進	8.0
⑨ インベスターズ・リレーションズ（投資家向けの広報活動）の充実	12.9
⑩ ディスクロージャーの電子化促進	4.8
⑪ 店頭市場改革の一層の促進	5.2
⑫ 上場、店頭登録前の株式の流通市場の整備	5.1
⑬ 発行・流通段階におけるCPのペーパーレス化	7.9
⑭ 社債、流通市場の整備（社債登録法のあり方等の検討を含む）	12.6
⑮ 株式・社債等の統一的証券決済システムの整備	3.9
⑯ 特になし	21.5
⑰ その他	1.6

c 資産運用者の観点から金融資本市場において今後見直すべき具体的課題（複数回答可）

（単位：％）

① 資産運用機関のディスクロージャー強化	52.5
② 投資信託・保険商品等の金融商品のディスクロージャー強化	37.5
③ 資産運用機関の受託者責任の整備	25.7
④ 分別管理の徹底	9.6
⑤ 多様なリスクとリターンの関係を有する資産運用対象の提供	13.1
⑥ 特になし	20.3
⑦ その他	1.0

(3) 直接金融に係る税制について

直接金融に係る税制に関して、今後見直すべき具体的課題（複数回答可）

(単位：%)

① CPに係る印紙税の引き下げ・廃止	24.8
② 社債利子に係る源泉徴収制度の見直し	17.4
③ ゼロクーポン（割引）債についての税制上の整備・明確化	2.3
④ 配当二重課税問題（企業利益に対して、法人段階で法人税が課された上に、配当に対して個人株主段階でさらに所得税が課されているとの問題）の見直し	36.2
⑤ 利益をもって株式を消却した場合等のみなし配当課税の廃止	21.4
⑥ 納税者番号制度の導入	3.8
⑦ デリバティブに係る税制の整備	7.4
⑧ 個人金融所得税制に金融所得概念を導入し、金融商品間の課税上の公平性を確保	3.6
⑨ 特にない	26.6
⑩ その他	3.1

(4) 政府系金融機関からの借入について

a 今後の政府系金融機関の融資のあり方（複数回答可）

(単位：%)

① 現状のままでよい	17.0
② 融資の「対象」を見直すべきである	31.8
③ 融資の「商品性（金利面を除く）」を見直すべきである	11.9
④ 民間金融機関対比での金利面の優位性を回復すべきである	46.7
⑤ 融資面での手続きを見直すべきである	36.8
⑥ その他	3.3

b 今後、政府系金融機関が積極的に融資すべきと考える分野 [aにおいて②を回答した企業]
(複数回答可)

(単位：%)

① 物的担保は乏しくとも、将来性のあるベンチャー・ビジネス	65.4
② 大規模な研究開発投資	28.5
③ 懐妊期間の長い社会資本関連の大規模プロジェクト	28.5
④ 経済環境の急速な変化によって、経営難に陥っている中小企業	46.4
⑤ 企業の海外展開支援	13.3
⑥ 高度情報化基盤の整備等新社会資本の充実	37.8
⑦ 住宅資金の円滑な供給	11.8
⑧ その他	3.2

◎ 設備投資の増額

(1) 今後、設備投資を増額する場合の重点項目

(単位：％)

	第1位	第2位	第3位
① 生産能力増強	33.1	10.5	11.7
② 更新、維持・補修	32.6	27.9	16.2
③ 研究開発投資	8.8	12.1	13.0
④ 省エネルギー投資・新エネルギー投資	1.3	4.0	5.9
⑤ 環境保全投資	1.4	5.9	10.4
⑥ 合理化・省力化投資	20.6	31.9	24.6
⑦ 情報化投資	2.3	7.5	17.5
⑧ 福利厚生投資	0.0	0.2	0.6

◎ 設備投資環境等に関するアンケート

(1) 今後の設備投資計画の見通しについて

国内設備投資について今後の意向

(単位：％)

① 国内景気動向にかかわらず、投資拡大	2.7
② 国内景気の回復状況にもよるが、基本的に投資拡大	16.6
③ 国内景気動向にもよるが、基本的に投資抑制	58.0
④ 国内景気動向にかかわらず、投資抑制	17.0
⑤ その他	5.7